

ブルジョアジの反革命的策動

被抑圧民族の圧殺と許すな!!

一杉高入増斗(準)

学校、授業なんぞ死ぬ程つらうホーと叫ぶ。ここでは感懐ばかりしている。空虛な空気に、道にブルジョアピラミッドの幻想をい続ける。

現在の左翼総体の理想の状況は切り開くモノは何であるか。今日のこの敗北の時にあっては斗争の必要を説くモノは、全くの()であり、又その場がざりの非連続的運動などというものは意味のほいコトである。この時にあっては意欲的行動と力という様子をノでなく、組織的、目的意識的行動と力という様子をノでなく、同時に、これこそ今の混沌状態を止揚する唯一の道である。この道は現在の左翼にとつての最重要課題とばかり、在日朝鮮人問題である。

被抑圧民族たる在日朝鮮人、そして、日本の支配階級たるブルジョアジといふ二つの関係を明確に把握しなければならぬ。

旧日帝の海外侵略、それと対峙して労働者として奮闘し、日本に連れられてきた朝鮮民族といふのがあり、しかも、それらに対し日本人アロレタリアートはブルジョアジの策動に力い一象徴的現象のとして、関與し、成りあける在日朝鮮人大量殺がある。自らを抑圧民族として形して自己を明確化し、そこからブルジョアジの排外主義、日本多日トタリアートと在日朝鮮人との分断政策の一環として入管体制といふものを打ち立てなければならぬ。

入管体制とは、まさに日本における反帝主義の前衛的闘いの伝承である。その過酷な支配、弾圧、ゆれに最も反帝主義的である在日朝鮮人に対する大量殺の手段としてある。日帝反革命が停滞したとき、この時我々は伝統的に形成せられてきた自己の抑圧民族たる意識を否定した上で、入管体制において争う者の立場にある日本アロレタリアートとしての方針、行動は出て来ない。抑圧民族としての自己の解体、その意識をなくしては、ブルジョアジの排外主義的策動に屈服せられることは明らかである。まさにその意識を保持し、これをブルジョアジによる在日朝鮮人に対する差別、弾圧を粉砕し、被抑圧民族たる在日朝鮮人の闘いを、我々は防衛していかなければならぬのである。

抑圧民族たる我々が、自己解体し在日朝鮮人として闘い、それにより、在日朝鮮人の無条件の自治権、自決権を認め、朝鮮籍入の書き換えを弾固支持してゆくそのエトによつて、実現されて行くのである。それは、在日朝鮮人との連体であり、そのことは日本左翼の戦前からわかって来た一口主義が今の永続の道でもある。そして、入管闘争とは細積的、口口主義への試金石ともなるのである。

* 入管体制粉砕!!

* 入管法再上程阻止!!

出発

見飽きた。夢は、どんな風にも在る。

待ち飽きた。閉けても暮れても、いつみても、街々の喧嘩だ。

知れ飽きた。差押えをくらった命。

一ああ、「たれ言」と「まぼろし」の群衆。

出発だ、新しい情と響きへと。

* 11.7 入管体制粉砕 [2:30 電塚公園(町下車)]

高校生総決起集会に結集せよ

学

学